

令和3年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立宮の原中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 221人

② 数学 222人

5 留意事項

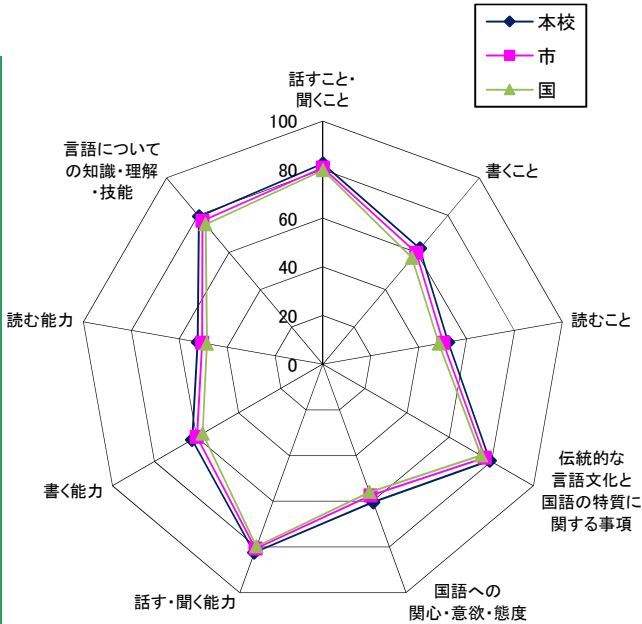
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立宮の原中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国, 市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	82.5	80.8	79.8
	書くこと	62.1	59.8	57.1
	読むこと	52.3	50.4	48.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	79.3	77.0	75.1
観点	国語への関心・意欲・態度	60.4	57.5	56.0
	話す・聞く能力	82.5	80.8	79.8
	書く能力	62.1	59.8	57.1
	読む能力	52.3	50.4	48.5
	言語についての知識・理解・技能	79.3	77.0	75.1



★指導の工夫と改善

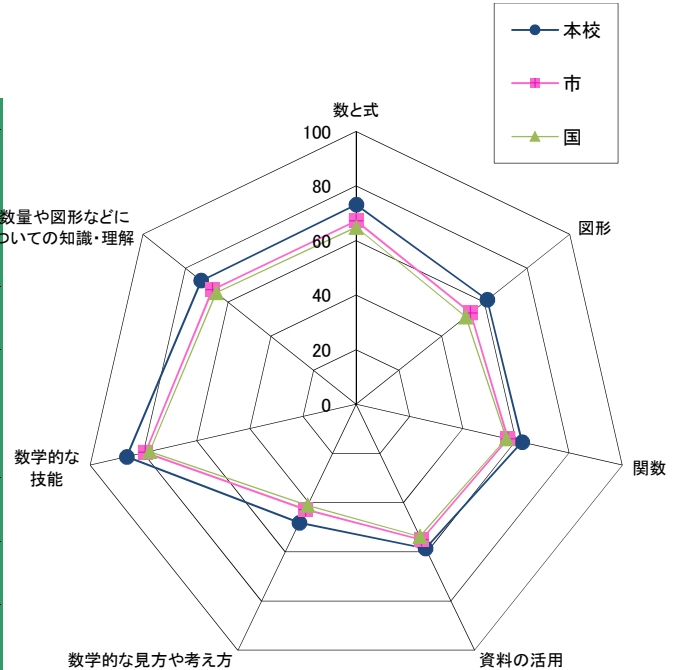
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○話し合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考えることを問う問題では、正答率が県や国の平均を5ポイント以上上回っている。 ●質問の意図を捉える問題では正答率は県や国の平均とほぼ同じである。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・発問を工夫し、何を問われているのかを確認しながら問いに答える練習を多くしていく。
書くこと	○書いた文章を互いに読み合い、文章の構成の工夫を考える問題では、県の平均を4ポイント近く、国の平均を6ポイント以上上回っている。(意見文の下書きの校正の工夫について自分の考えを書くことができた生徒が80%を超えている) ●書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書く問題では、正答率が県や国の平均を4ポイント上回っているが、正答率が29%にとどまっている。	・意見文を書かせる際に、何を書けばいいのか意図を正しく理解できるように、確認の時間を多くとる。 ・実際に書いた文章を生徒同士で読み合い、いいところ、改善できるところを自分たちで考えさせるようにする。 ・文章を書く時間を定期的に確保する。
読むこと	○場面の展開、登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解する問題では、正答率が県や国の平均を5ポイント以上上回っている。 ●文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えを持つ問題では正答率は県の平均を2ポイント近く上回っているものの、無回答の生徒が15.4%いる。(問いの意図が理解できていない生徒が見られる。)	・文章を引用し、それをもとに自分の意見を書くという出題に慣れてはいないので、様々な問いに触れる機会を設定する。 ・適宜選択する問題はおおむねできているので、問いに対して抜粋ではなく、自分の言葉で表現できるように指導していく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○文脈に即して漢字を正しく読む問題は正答率が2問とも95%を超えている。 ●相手や場に応じて敬語を使う問題では、正答率は国の平均よりも6ポイント以上上回っているが、県の平均とはほぼ変わらない。(敬語の種類を適切に判断する、適切に直すことができる生徒が50%程度である。)	・漢字の読みや、言葉の意味を文脈に即して読むことは、漢字練習や語句調べを継続して行った成果なので続けていく。 ・敬語については、日常の学校生活でも適宜使えるようにし、正しく使える指導をするとともに、敬語に関する問題に触れる機会を設けていく。

宇都宮市立宮の原中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	73.2	67.2	64.9
	図形	61.4	53.6	51.4
	関数	62.3	57.0	56.4
	資料の活用	58.6	55.1	53.8
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	48.2	42.8	41.1
	数学的な技能	86.3	79.3	77.7
	数量や図形などについての知識・理解	72.7	67.4	65.6



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○数と式の区分の正答率は、市や全国の正答率を5ポイント以上上回っている。特に、四角で4つの数を囲むとき、4つの数の和はいつでも4の倍数になることを説明する問題に対する正答率は、市や全国の正答率を大きく上回っている。 ●選択式問題や短答式問題の正答率と比較すると、記述式問題の正答率6(3)が低い。	・今後も基本的な計算力を高めるために、既習の計算問題を取り入れたプリントを活用し、授業内外で反復練習を行っていく。 ・数量の関係を的確にとらえ、等式で表す活動を重視し、またそれらを用いて論理的に説明できるように指導を行っていく。
図形	○数と式の区分の正答率は、市や全国の正答率を7ポイント以上上回っている。特に、中心核60°の扇形の弧の長さを選ぶ問題に対する正答率は、市や全国の正答率を大きく上回っている。 ●選択式問題や短答式問題の正答率と比較すると、記述式問題の正答率9(3)が低い。	・今後も図形に関する基本的な知識・理解を高める指導に重点を置きながら授業を展開していくとともに、授業内外で既習事項を含めた反復練習を行っていく。 ・やや発展的な問題を扱い、レポートにまとめさせるなど、既習事項を用いて新たな性質を発見できるような授業の展開を図る。
関数	○関数の区分の正答率は、市や全国の正答率を5ポイント以上上回っている。特に、錯角が等しくなることに、根拠となる2つの直線の関係を記号を用いて表す問題に対する正答率は、市や全国の正答率を大きく上回っている。 ●選択式問題や短答式問題の正答率と比較すると、記述式問題の正答率7(2)が低い。	・今後も関数に関する基本的な知識・理解を高める指導に重点を置きながら授業を展開していくとともに、授業内外で既習事項を含めた反復練習を行っていく。 ・具体的な関数を取り上げ、表やグラフの特徴を捉えることで、比例や反比例、一次関数の関係について理解を深めさせていく。
資料の活用	○資料の活用の区分の正答率は、市や全国の正答率を3ポイント程度上回っている。 ●選択式問題や短答式問題の正答率と比較すると、記述式問題の正答率8(3)が低い。	・資料の活用の領域に関する問題正答率が他の領域の問題正答率と比較して全体的に低いため、1・2年生で学んだ既習事項を振り返る機会を設け、理解が深められるようにする。

宇都宮市立宮の原中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分には、良いところがあると思いますか」の質問に、「当てはまる」と回答した生徒の割合は44.6%で、県平均よりも7.6%、全国平均よりも10.1%上回っている。今後も、自己を肯定的に捉え、活力ある行動・考え方が深まっていくように工夫していきたい。

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問では、99.5%の生徒が「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の回答となった。「当てはまる」と回答した生徒の割合は92.4%で県平均より6.4%高く、全国平均より12%高い。今後もいじめ根絶に向けて家庭生活および学校生活における意識付けを高め、100%を目指していきたい。

○「学校に行くのは楽しいと思いますか」の質問では84.9%の生徒が「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の回答となった。「当てはまる」と回答した生徒の割合は60.3%で県平均より11.2%高く、全国平均より17%高い。今後も教職員一丸となって充実した学校生活を送れるよう、学校づくりに取り組んでいきたい。また、「当てはまらない」と回答している2.7%の生徒が肯定的に捉えられるような工夫をしていきたい。

○「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」の質問では83.9%の生徒が「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の回答となった。これは県平均より6%、全国平均より9.2%高い。これは授業や道徳で取り入れている「学びあい」や「教えあい」活動等を通して、いろいろな意見に耳を傾けながら自分との違いや、相手の考え方を尊重する活動を取り入れている結果だと思われる。今後も様々な場面で友人の考え方を尊重しつつ、自分の意見を明確にしていく活動を継続していきたい。

○「友達と協力するのは楽しいと思いますか」の質問で「当てはまる」と回答した生徒は83.5%で県平均より12.2%高く、県平均より17.7%高い。昨年度はコロナ禍で活動が制限されたが、1年生の時には部活動や学校行事等で団結して活動したことや上記の「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」の質問の肯定的割合が多いように、日々の授業の中で協力し学び合っていることが大きいのではないかと考える。今後も、学校生活全般で協力していくことの楽しさを感じられるようにしていきたい。

○「普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか」の質問に3時間より少ないと回答した生徒の割合は59.8%で県平均より13.4%低く、全国平均より17.1%低い。携帯電話の使用については折に触れて話をしたり、保護者会等でも啓発活動に努めている。今後も啓発活動を継続していきたい。

●「あなたは学校で、コンピュータなどのICT機器を、他の生徒と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用していますか」の質問に「月1回未満」と回答した生徒が65.2%で県平均より35.6%、全国平均より28.4%多い。昨年度までは生徒数も多いため、パソコンを使って調べ学習を行うことは難しい場面もあったが、今年度は1人1台端末の活用が始まり、授業中でも使用する機会が多くなっている。1人1台端末の活用で友人と意見を交換したり、調べ学習をするなど活用していきたい。

●「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の質問について「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒の割合は37.9%で、県平均の47%、全国平均の43.7%を下回っている。地域と結びつきながら、地域とともに生徒たちが関わりあう行事に参加している意識が低い結果が読み取れる。今後は地域協議会や地域学校園及び地元自治会との会合等で、生徒と地域が関わりあえる活動があれば、発信していく。

宇都宮市立宮の原中学校（第3学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・授業のねらいの明確化 ・学業指導の充実 ・家庭学習の習慣化	・ねらいの提示と振り返りを行う。 ・5分前着席や態度の指導を行う。 ・課題の提出を徹底させる。	・ねらいの提示と振り返りはおおむね徹底できている。 ・5分前着席はおおむね徹底できている。 ・家庭学習は毎日自主学習ノートを提出させることでおおむね徹底されている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・おおむね全国平均を上回っているが、ICTの活用についてが課題である。	・1人1台端末を活用した授業の実践を図る。	・授業中の積極的な活用 ・実施事例研修会の開催